

**WEEKLY SIGNAL**

2020年8月28日(金) 1539号

上田八木証券株式会社

**来週の市場とレート予想**

	8/31(月)	9/1(火)	9/2(水)	9/3(木)	9/4(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 400	+ 1,000	+ 1,000	トシ	+ 1,000
財政他	+ 4,200	△ 26,000	△ 47,000	+ 1,000	△ 8,000
資金需給	+ 4,600	△ 25,000	△ 46,000	+ 1,000	△ 7,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行・償還(2年)	国債発行(10年) 税保険揚げ 普通交付税交付金		国債発行(30年)
オペ期日	CP等買入 △ 2,900		成長基盤 △ 4,400		米ドルオペ用担保供 + 1,000
オペスタート	国債買入 + 2,100				
(日本)	小売売上高(7月) 鉱工業生産(7月) 百貨店・スーパー売上高(7月) 住宅着工件数(7月)	完全失業率(7月) 有効求人倍率(7月)	若田副総裁のあいさつ マネタリーベース 営業毎旬報告(8月31日現在)	片岡審議委員のあいさつ 対外・対内証券投資(8月23-29日)	
(海外)	米 アトランタ連銀総裁の講演	米 ISM製造業景況指数(8月) 米 自動車販売(8月) ユーロ圏 製造業PMI(8月) ユーロ圏 CPI(8月)	米 クリーブランド連銀総裁の講演 米 地区連銀経済報告 米 ADP雇用統計(7月) 米 製造業受注(7月)	米 シカゴ連銀総裁の講演 米 貿易収支(7月) 米 新規失業保険申請件数 (29日終了週) 米 ISM非製造業総合景況指数(8月)	米 雇用統計(8月)

**[インターバンク市場]**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	0.000 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

**<インターバンク>**

日銀当座預金は週初、450兆5,700億円から始まった。その後、財政等要因により447兆円台まで減少し、27日には国債買入や新型コロナ対応金融支援特別オペを主要因に463兆円台まで増加した。週末となる28日には464兆8,400億円となった。  
無担保コールON物の加重平均金利は週初△0.041%から始まったものの、調達意欲が徐々に弱まったことで低下基調となり、27日には△0.054%まで低下した。  
ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.04%~△0.03%での取引がみられた。  
政府は27日に公表した月例経済報告で「依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる」として景気の総括判断を据え置いた。  
来週は国内では、7月の鉱工業生産指数(31日)、7月の失業率と有効求人倍率(1日)  
海外では、8月の米ISM製造業景況指数(1日)、8月の米雇用統計(4日)などが予定されている。

**[オープン市場]**

CP3M(a-1+)	△0.02 ~ 0.000
TDB 3M	△0.130 ~ △0.085
現先(on/1w)	△0.05 ~ 0.00

**<C P>**

今週の入札発行総額は約9,500億円で、週間償還額(約9,800億円)に対しほぼ横ばいとなった。月末の期落ち(8,200億円)については約5,400億円程度の発行に止まり、償還超となった。先週末の市場残高(25兆8,059億円)に対し、27日時点では約26兆866億円程度となり、過去最高を更新した模様(8/6:25兆9,525億円)。26日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円でオフアーされ、結果は按分レート△0.028% (前回△0.058%)・平均落札レート△0.023% (前回△0.017%)と案分レートが大きく上昇した。来週の償還総額は、900億円弱程度となっている。月初めでもあり、5・10日発行以外は案件少なく落ち着いたマーケットが予想される。発行レートは、今週と変わらずマイナスから0%近辺の出合いとなろう。3日に、CP等買入オペが6,000億円程度オフアーされる予定。

**<TDB>**

24日の6M932回債(2/25償還)の入札は、最高落札利回り△0.1011%(前回償還△0.1375%)、平均落札利回り△0.1110%(同△0.1454%)となり、入札後△0.11%の出合が見られた。28日の3M933回債(11/30償還)の入札は、最高落札利回り△0.0862%(同△0.0753%)、平均落札利回り△0.0898%(同△0.0829%)となり、入札後△0.12%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは3M929回債(11/16償還)が△0.10%~△0.12%のレンジ、3M931回債(11/24償還)が△0.087%~△0.093%のレンジ、1Y930回債(8/20償還)が△0.125%~△0.136%で取引された。

**<レポ>**

足許GC取引は、週初△0.07%~△0.065%で始まり、翌日も同水準で推移した。短国買入オペが実施された27日受渡しは△0.08%を中心に取引され、翌28日受渡しでは△0.09%台まで低下した。短国3Mの発行日となる週末の31日受渡しは、△0.08%台に戻して越月となった。  
SC取引は2年410~415回債、5年140~144回債、10年340~359回債、20年169~173回債、30年66~67回債、40年13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。